

〈インフルエンザについて〉

南部保健所管内では、定点あたりの報告数は先週より減少していますが、**37.0** と警報レベルを超え推移しています。この病気は、インフルエンザウイルスによって起こる感染症で、咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込んだり、ウイルスが付着した手を介して感染します。1～3日の潜伏期間の後、38℃以上の発熱や頭痛、関節痛、鼻汁、咳等の症状が突然現れます。治療は抗インフルエンザ薬による治療が中心となりますので、早めに医療機関を受診しましょう。ひきつづき流水・石鹸による手洗い、アルコール製剤による手指消毒、適度な湿度の保持、人混みへの外出を控える、十分な休養とバランスの取れた栄養摂取等に心がけましょう。

〈A群溶血性レンサ球菌咽頭炎について〉

南部保健所管内では、定点あたりの報告数がA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は**3.67**と警報レベルを下回っています。

〈マイコプラズマ肺炎について〉

例年の同時期と比較県内での患者報告数が増加しています。全国的にも同様に報告数が増加しており、約8年ぶりの高い水準となっています。手洗いの励行、場面に応じたマスク着用、発熱や痰を伴わない咳が続く場合は、早めの受診などの対策をお願いします。

今後の感染予防・感染拡大防止に向けた注意喚起「4つのお願い」

1. 「基本的な感染対策」で感染予防！
室内の換気、手洗いの励行、咳エチケット、場面に応じたマスク着用など
2. 「ワクチン接種」で重症化予防！
高齢者や基礎疾患のある方は、特に接種をおすすめします。
3. 「体調おかしいな？」は休んで感染の拡大防止！
少しでも体調に異変を感じたら、ちゅうちょせず休みましょう。コロナは5日間、外出を控え療養を。
4. 解熱剤等の常備薬を準備！
体調不良時の療養に備え、早めに準備しておきましょう
体調に変化を感じた場合は、早めに医療機関を受診してください。

南部保健所(0972-22-0562)

感染症発生動向調査の結果(南部保健所管内)

《定点報告》

令和7年第3週(1月13日～1月19日)

《全数報告》

	インフルエンザ			C O V I D - 1 9	R S ウ イ ル ス	咽 頭 結 膜 熱 (プ ル 熱)	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑 (リ ン ゴ 病)	突 発 性 発 疹	ヘル パ ン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎 (お た ふ く か ぜ)	肺 炎 マ イ コ プ ラ ズ マ	風 疹	麻 疹 (は し か)	百 日 咳	
	A 型	B 型	不 明																
0歳	0.60							0.33				0.33							
1～3歳	4.40			0.80			0.67	0.33				0.33			0.33				
4～6歳	6.60		0.60	0.40			0.33	0.67											
7～9歳	6.60		0.40	1.20			1.00	0.67							0.33				
10～14歳	4.40		1.00	1.00			1.33	0.33							0.33				
15～19歳	2.00		0.20	0.20				0.33											
20歳以上	10.00		0.20	2.80			0.33	0.67											
計	34.60		2.40	6.40			3.67	3.33				0.67			1.00				
70歳以上 (再掲)	0.80			1.00															
前週	38.60		5.80	8.80			3.33	6.67							2.67				

警報レベル

注意報レベル

※感染症発生動向調査について

○感染症については、原則医師からの報告により全数を把握していますが、インフルエンザなどの特定の疾病については、指定された医療機関(定点)からの報告で発生状況を把握しています。(定点医療機関数 インフルエンザ5箇所、小児科3箇所)(ここにあげた数値は、1定点あたりの平均の患者数となります。)

○警報レベルは大きな流行が発生または継続していると疑われることを指します。注意報レベルは、流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いことを、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

掲載内容について、不明な点がある場合は、下記へお問い合わせください

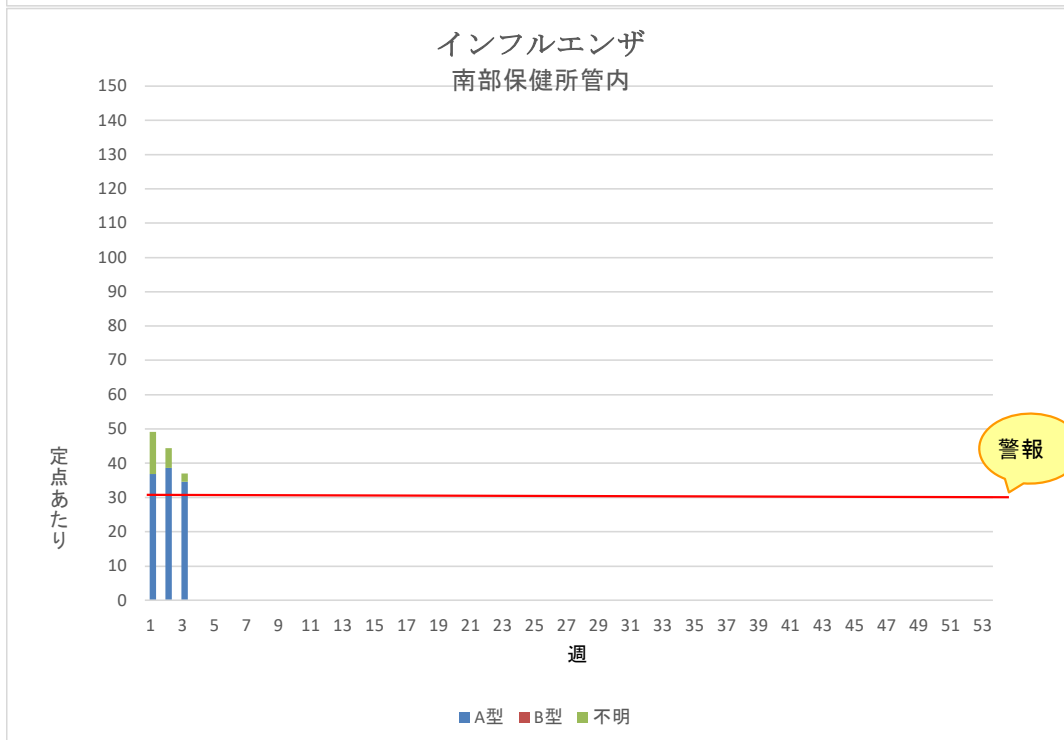
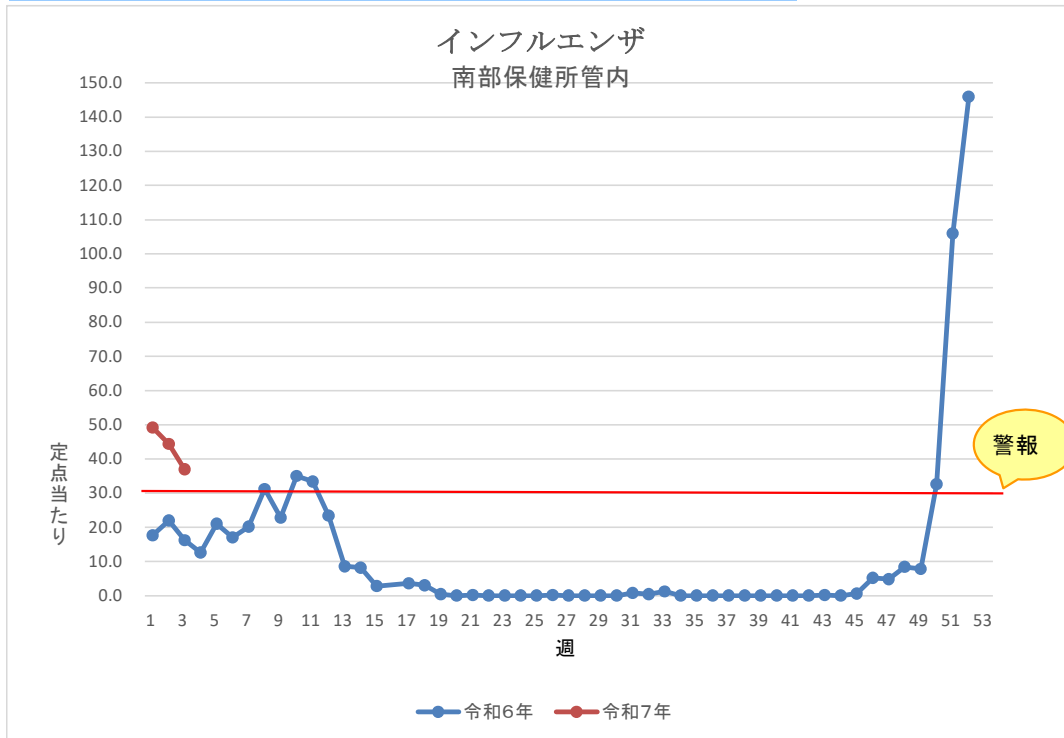
大分県南部保健所

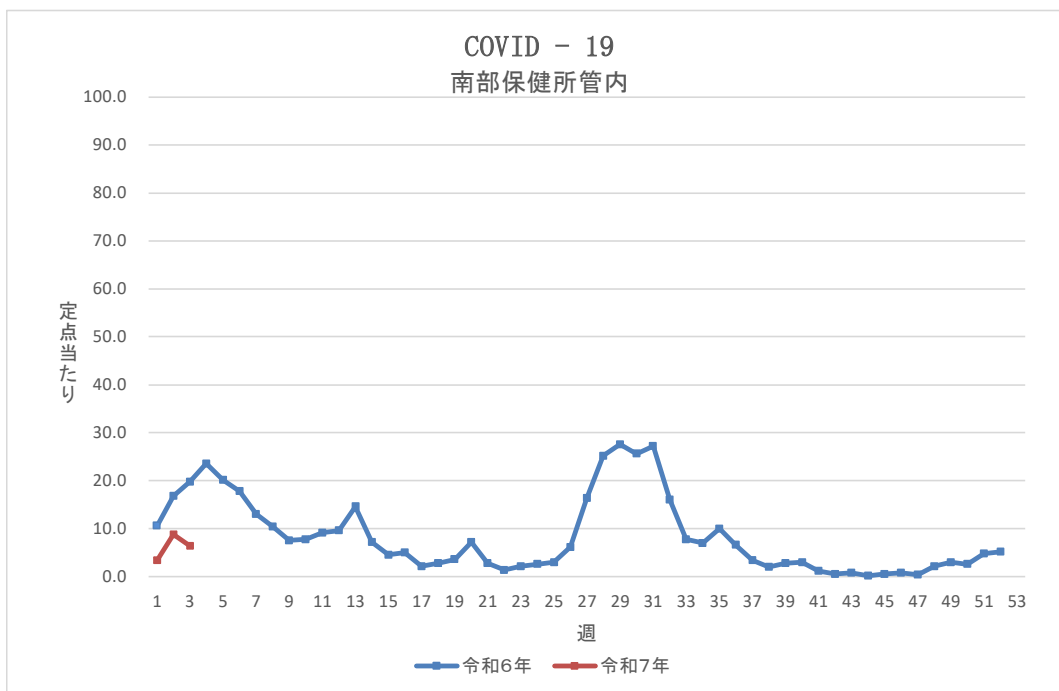
電話 0972-22-0562

Eメール a12085@pref.oita.lg.jp

FAX 0972-25-0206

グラフで見る佐伯地域の感染症発生状況





疾患ごとの警報・注意報の基準値は以下のとおりです。

疾病	警報レベル		注意報レベル 基準値
	開始基準値	終息基準値	
インフルエンザ	30.0	10.0	10.0
咽頭結膜熱	3.0	1.0	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	—
感染性胃腸炎	20.0	12.0	—
水痘	2.0	1.0	1.0
手足口病	5.0	2.0	—
伝染性紅斑	2.0	1.0	—
百日咳	1.0	0.1	—
ヘルパンギーナ	6.0	2.0	—
流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3.0
急性出血性結膜炎	1.0	0.1	—
流行性角結膜炎	8.0	4.0	—

なお、基準値はすべて定点当たりの値です。また注意報の数字が入っていないものは、注意報の対象外という意味です。